

## 令和5年度第2回仙台市協働まちづくり推進委員会 議事録

- 日 時：令和5年11月22日（水）15:00～17:00
- 場 所：仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター
- 出席委員：高浦康有委員長、石田祐委員、岩間友希委員、加藤隆委員、小林幸司委員、佐伯恵子委員、高橋由佳委員、傳野貞雄委員、春由美委員、
- 欠席委員：佐々木綾子副委員長、庄子康一委員
- 事務局：市民局長、市民局次長兼市民活躍推進部長、市民協働推進課長、市民活動推進係長、市民活動推進係職員、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター常務理事・事務局長、市民活動サポートセンター長

### ○次第

- 1 開会
- 2 議事  
市民活動サポートセンターの機能のあり方について
- 3 その他
- 4 閉会

## ○ 会議内容

### 1 開会

[事務局（市民活動推進係長）]

- ・石田委員がリモート参加となる。
- ・委員 11 名中、本日は 9 名が参加。出席が過半数を超えており、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例施行規則第 4 条第 2 項の規定に基づき、会議は成立する。
- ・以降の進行は高浦委員長にお願いしたい。

[高浦委員長]

- ・議事録署名については、出席者の中から五十音順で指名したい。今回は高橋委員にお願いしたい。（高橋委員了承）

### 2 議事

市民活動サポートセンターの機能のあり方

[事務局（市民協働推進課長）]

- ・資料に基づき説明

[高浦委員長]

- ・私も委員をしている男女共同参画推進審議会で話題にあがる事業で「トナカフェせんせい」というアウトドアチ事業がある。キミノトナリという NPO に委託している事業で、主に金曜夜に、相談員が夜回りと合わせて、カフェのようなスペースでお菓子やお茶を提供しながら女性たちのお話を聞くというもの。
- ・現在は民間の貸しスペースで活動しているようだが、プライバシーの確保にも配慮しながらにはなるが、市民活動サポートセンター（略称：サポセン）の機能のアイディアのひとつとして、そのようなカフェスペースをこのサポセンで用意できたら良いのではないかとも思った。
- ・若者が若者を支援するような取り組みに繋がっていけば良いと思う。様々なサポセンの使い方があるのでないだろうか。

[小林委員]

- ・私の所属する団体の活動の中でも、以前に比べると若者が来なくなり、広がりがなくなつたように感じることがある。昔は学生がふらっと来たりしていたが、コロナ禍以降はそのような場が作れなくなってしまっている。
- ・私たちが一生懸命活動内容やメニューを考えて、その内容を学生や若者に見てもらうと、活動内容そのものよりも、集まる場所があるか、参加しやすい状況であるかなどに関心があるようで、結局最後は「人」なのかと感じことがある。
- ・サポセンも移転があったり、コロナ禍で人を集められなくなったりなどあると思うが、昔は、何となくサポセンに来ると、他の活動団体の人と出会えて話ができたり、そこから繋がりができたり、それが次の活動に繋がったりということが多くあったと思う。
- ・先ほどカフェの話もあったが、頻度は月に 1 回程度でも良いが、今月はこのテーマで気軽に話すといった場があって、何時に来ても何時に帰っても良いといった、人がふらっと立ち寄れるような状況をいかに作れるかが意外とポイントなのかなと、自分の活動とも照らしながら思った。

[高橋委員]

- ・改めて人づくりは重要なだと感じた。まちのアドバイザーとファシリテーターの繋ぎ役がきっとその地区や地域において、その方々がキーパーソンになってくるのだと思う。
- ・その方々が、多様化している社会課題の解決や、様々な NPO を繋ぐ役割になっていき、

一緒に解決できるという仕組みができるのではないかと感じた。

- ・海外の福祉分野で「ヒューマンライブラリー」という取り組みがあり、福祉に関する相談をする際に、図書館のようにたくさんいる専門家の中から、選んだ専門家に会って相談できる仕組みがある。今ではオンラインで話をしたり、LINEなどでチャットをしたりできるようにもなっているようだ。そのように、専門家がわざわざ出向くだけではない仕組みもあるとさらに良いのではないかとも思った。
- ・石巻市では、被災した空き家や空き店舗を若い方々がリノベーションして、人の集まるような場所を作っている。そこにはボランティアの方や、地域の町内会の方、ご高齢の方、若い方、学生もみんな集まってきていて、同じ方向のゴールに向かってみんなが自分事として一緒に汗を流して頑張っており、とても大事な場所になっている。そこがたくさんの人の集まるサードプレイスになっており、そのような取り組みが自発的に沸き起こっているところがとてもいいなと思っているので、仙台市にもそのような場が地域の中にあちこち点在すると、何かワクワクしたまちや人が歩いているまちに変わっていくのかなと思った。
- ・そのような取り組みが生まれてくるときに、そういった場所があるという情報発信やネットワークの部分で、サポセンが繋ぎ役として機能するという形が良いのかなと思う。

#### [高浦委員長]

- ・ある程度、専門的な知識を持った団体や大学関係の研究室などが、常駐にとらわれず定期的な入れ替わりであっても構わないので、サポセンに拠点を設けられると良いのではないかだろうか。
- ・サポセンの事務用ブースも現在7つあるが、そのうち2つしか利用されておらず余っている。通年募集をかけているが利用が進んでいない状況の中で、先ほど意見が出たように、ずっとそこにいるというよりもふらっと立ち寄れる場があると、若い人もサポセンを訪れて何か話を聞いてみようとなるかもしれない。

#### [岩間委員]

- ・コーディネーターの重要性や、コーディネーターの人柄に人が寄ってくるというのは本当にその通りだなと思う。
- ・配布された資料の中で「主体の多様化」であったり、今後の取り組みとして「まちづくり拠点と連携を図りながら」と書いてあるが、本当に主体が多様化しているだけに、自分たちではまちづくりをしていると思っていないけれども、実際は地域において中間支援として機能しているような拠点もあると思う。例えば、コワーキングだけをやっていると思っていても、実質的には様々な困りごとを繋いで解決に至っているといった場合である。連携先を探す際にも、いわゆる「まちづくり拠点」に限定せずに、様々な場所と情報交換していくければ良いと思う。
- ・また、コーディネーターが重要になってきた際に予想されるのが、個別化している課題にコーディネーターがどこまで対応するのかということである。課題全てに対応していると、コーディネーター側の負担も上がっていくことが予想され、継続的に支援することが難しくなると思う。

#### [高浦委員長]

- ・個別の事案についてもNPOが対価を受け取れるような仕組みになっていくといいのかもしれない。コーディネーターに対してどういう対価を払っていくか、その規範みたいなものが生まれていくと、使い勝手のいいコーディネーターではなく、プロフェッショナルとしてより長期的にもコミットをしやすいのかもしれない。
- ・いろいろな場所に中間支援的な機能を持ったまちづくりのプロフェッショナルがいるはずなので、サポセンがどんどんとまちに出かけて、そういう方々と関わっていけると良いのではないか。

[佐伯委員]

- ・全体的に、人手が大幅に増えないとできないのではないかと感じた。現在でもサポセン職員が多く業務をやりくりしながらされていると思うが、取り組みに対する人員はどのように確保していくのか、何か見通しはあるのか。

[事務局（市民協働推進課長）]

- ・通常業務を行なながら新たに業務を加えていくのは難しいことなので、既存の業務の効率化を図っていく必要はある。人員体制の見直しも必要かもしれない。
- ・また、サポセンだけでコーディネートをするというよりも、地域の様々な主体と一緒になり一つのコーディネートを仕上げていくようなあり方もあると考えており、そういう形を目指していきたいと考えている。ただ、それを目指すにも、まずはサポセンが外に出て、様々な団体と繋がって関係性を持ち、この分野にはこのようなキーパーソンがいるということを知ることが重要であると考えている。
- ・そして将来的には、コーディネート機能を、市民や大学生、大学院の方、社会人といった様々な方が担えるよう、コーディネートするための実務をサポセンと一緒に経験してもらい、何年かけてノウハウを習得してもらえたたら理想的だと思っている。

[高浦委員長]

- ・町内会や自治会の防災面でのコーディネーター的な役割も果たしている仙台市地域防災リーダー（SBL）の養成にも力を入れている。さらに、民生委員など、もともと地域と密接に関わっている方もいると思うので、サポセンが繋いでいければ良いと思う。
- ・さらに、先ほどのふらっと寄ることのできる空間づくりということでは、例えば、以前サポセンで行っていた小冊子や書籍が読めるスペースを設けたり、別の施設の例えだが、本棚にお金を支払って自身の好きな本を並べられるといったようなスペースみたいなものがあると、面白いのではないかと思う。

[事務局（市民活動サポートセンター長）]

- ・コロナで中断しているが、以前は「マチノワフライデー」という名で、プレミアムフライデーに合わせて毎月最終金曜夜に行っていったイベントがあり、飲み物などを準備しておき、人々が交流するイベントを開催していた。確かに様々な人が来ていたと思う。毎月最終金曜日といった定期的な開催であったことも、ふらっと立ち寄ることに繋がり、確かに効果はあったと感じている。

[春委員]

- ・自分の業務と重ねながら参考にさせてもらえるなと思いながら聞いていた。
- ・社会福祉協議会では、コロナ禍に對面での活動ができない代わりに、非接触型ボランティア活動の「届けるボランティア活動」というものを第1・第3土曜日の10時から15時までの間に開催していて、学生を中心に多くの人が集まってきた。コロナが5類に移行してからは「届けるボランティア活動」の参加人数が少し減ってきており、代わりに對面でのボランティア活動をするために、ボランティア保険の加入率も上がっており、やはり對面での活動を強く望んでいる人が多いことを実感している。
- ・コーディネーターの強化というのは非常に大切だと感じている。ただ、コーディネーターといった際に、中間支援組織であると自覚しているところもあれば、一方で自覚せずに自然とコーディネーターの役割を果たしている人たちもあり、そのような方々については役割を果たしていると意識させることで、逆に萎縮してしまう場合もあるのではないかとも思う。
- ・また、連携の仕方にも難しさを感じている。職員が異動するとそれまでの繋がりが切れてしまう場合もあり、とても残念なことだと感じている。職員が変わると同じ組織であると言つてもなかなか繋がりにくくなってしまう。繋がった方同士が個人個人で会うのではなく、年に1・2回でもいいので、できるだけ主要な方々が一同に集まれるような場づくり

をしていくと、もう少し繋がれるのではないかと思う。

- ・また Win-Win の関係も大切であると思う。こちらからお願ひするだけではなく、その方に何かしらプラスになるような、メリットのようなものがないと繋がりは途絶えてしまう。
- ・また、職員だから何でも支援するというのは難しいと思うので、相談内容によっては得意分野の方々につなぐということがコーディネートだと思う。どこまで支援するのか、それぞれの役割分担はすごく難しいところだと思う。
- ・社会福祉協議会でも何か仕組みづくりを考えていけたらなと思っているところなので、ぜひ皆さんと一緒に、今後そのような取り組みをできていけたらいいなと思う。

[高浦委員長]

- ・現状、社会福祉協議会とサポセンはどういった連携を図っているのか。

[春委員]

- ・サポセンは市民活動や NPO の情報を多く持っており、相談のプロなので、活動の相談や助成金の相談等のお問い合わせが当団体に来た場合は、サポセンに連絡するよう促している。
- ・会議等では業務内容のすり合わせをしているが、今後は連携など一緒にできる機会が増えしていくのがいいと思う。

[傳野委員]

- ・サポセンの機能のあり方については、様々な面で勉強しなければといつも感心しながら聞いている。
- ・私の住んでいる地区では、高齢者を見守り、毎日快適な生活ができるような取り組みを 100 名以上のボランティアの協力を得ながら進めている。ボランティアが町内の情報を集めながら継続的に開催することで、1年ぐらいは参加を見合させていた高齢者も、2年目ぐらいになるとぼつぼつと参加ってきて、その友達をまた誘ってと広がり、関わる人々が増えていくサイクルで成り立っている。
- ・活動資金は民間や町内会の皆さんからの寄付を募っていて、企業から商業施設の一角を提供してもらっており、社会福祉協議会、大学の看護学部、地域包括支援センターなどにも参画いただいている。

[高浦委員長]

- ・地域の高齢化が進む中で、コミュニティ内で支え合うような仕組みをボランティアベースで行っている成功例である。地域内でのカフェのような場の重要性を感じる。町内会、地縁団体の取り組みについても、今後もより一層サポセンから発信していかなければ良い。

[石田委員]

- ・今、どこの地域の支援センターでも、同じように地域のコーディネーターが話題になっているが、コーディネートする人によって得意不得意がある。
- ・支援センターというと、従来は来る人を相手にすることが多かったと思うので、こちらから出していくといった働き方をする場合には様々な研修が必要になるかと思う。
- ・また、中間支援をするには、様々な相談をしてくる人に対応する際に、より多くのことを知らないといけないということがあり、ますます研修が重要になってくると思う。

[岩間委員]

- ・これまでのやりとりで、今後のサポセンができるだけコーディネーターを養成し、地域にコーディネーターの候補者が増えるように進めていければとの話があり、とても良いなと思った。
- ・またコーディネーターの中には、全て有償ではなくても、それこそ団体同士の交流ができるのであればとても刺激になるため、有償でなくともかまわないという方もいるような気がする。やはり、人に寄るということだけあって、その人となりの、それぞれのコーディ

ネーターが多様になるという意味でも、いいのではないかと思った。

- ・さらに、コーディネーターを公的に養成していくのであれば、何かしらのお墨付きがあるとコーディネーターが地域で動きやすいと思う。ある地域では、小中学校で必修化された探求学習に対して、教育委員会が公認するコーディネーターがいて、地域と連携して行う際に活用されているようである。そのようなお墨付きがあると、コーディネーター側も学校生徒も動きやすいなど感じたことがあり、まちづくりの領域にも似ているのではないかと思った。

[事務局（市民活動サポートセンター長）]

- ・教育機関との連携というと、高校からは授業のアドバイスの依頼や、生徒がサポセンに来た場合の対応依頼の相談が来ることがあり、大学との連携では東北大学と仙台白百合女子大学の社会教育実習の受け入れを行っている。

[春委員]

- ・社会福祉協議会でも過去にボランティアコーディネーター養成講座を開催して、受講者にフォローアップや地域と繋ぐことも行っているが、コーディネーターというものが知られていなかつたために、地域でその役割を主張しにくいといったことや、逆に、コーディネーターという名前が邪魔をしてしまうこともあるようなので、その仕組みをつくるときはひと工夫が必要かもしれない。

[高浦委員長]

- ・サポセンは内装もポップな雰囲気に変えて明るくなり、職員の皆さんもすばらしいサービスをされていると思うので、引き続き、市民目線で力を発揮していただければと思う。
- ・本日の議事は以上したい。
- ・最後に、次第「3. その他」について事務局からは特になしだが、皆さんから何かあるか。(特になし)

[事務局（市民活動推進係長）]

- ・本日の委員会はこれにて終了とさせていただく。  
一了

〈議事録署名人〉

〔委員長〕 高浦 康有

〔署名人〕 高橋由佳